

照々法師

晴雨計

曇

よし、これによつて龜井侯御通行の時は、かならず日和崩れて、風雨をさそひ、まづかならず、侯過
 行たまへば、たちまち快晴することなり、故に雨風をまじへ降とも、山はれ沖を走りなき時は、龜
 井日和といひならはせるよし、
 【嬉遊笑覽】ガハ照々ほうし、不角が點の句にてる、法師月に目が明、願のかなひわれは、曇紀逸
 が點の句に、八せんにてる、法師はがきかす、漢土には是を掃晴娘といふ、蜻蛉日記、今日か、
 る雨にもさはらで、をなじ所なる人ものへまうでつ、さはることみなきにとおもひ出たれば、或
 もの女神にはきぬ縫てたてまつるこそよかくなれ、さしたまへど、よききてさ、めけば、いで心
 みんとて、縑のひ、な衣みつぬひたり、またかひどもにかうぞ書たりける、いかなる心ばべにか
 ありけん、神ぞまきてんかし、まろたへの衣は神にゆづりてん、だてぬ中にかへしなすべく云
 云、此作者兼家公の妻、道綱卿の母公の寵衰へたるによりて、これらの歌あり、此ひ、な衣、雨を祈
 ることとも聞えず、雨ふる日なれば、似たることのやうなり、
 【武江年表】ハ此年間政、文、記事、晴雨計といへる、
 雨降時は自然に持たる傘をさす、

○
 【新撰字鏡】日晴、晴、明也、於計邑計二反、去陰而風曰晴、晴也、言奄、晴日光使不、曇、太合反、久

【類聚名義抄】日曇、徒甘反、【同】六陰、音々、イ、ム、

【書言字考】節用集、乾、坤、曇、謂之曇、曇、也、通作陰、

【日本釋名】天象、曇、こもる也、月日の雲中にこもる也、ことくと通ず、一説くもるは雲より出たる

ことば、るはことばのたすけ字也、

【倭訓栞】前編、八くもる、靈異記に、雲をよみ、常に曇をよめり、雲を用にいふ也、萬葉集には雲入と